

# 定 款

社会福祉法人 啓 仁 会

# 社会福祉法人 啓 仁 会 定 款

## 第 1 章 総 則

### (目 的)

第 1 条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第 1 種社会福祉事業

(イ) 障害者支援施設の経営

(2) 第 2 種社会福祉事業

(イ) 障害福祉サービス事業の経営

(ロ) 特定相談支援事業の経営

(ハ) 生計困難者に対する相談支援事業

### (名 称)

第 2 条 この法人は、社会福祉法人啓仁会という。

### (経営の原則等)

第 3 条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

### (事務所の所在地)

第 4 条 この法人の事務所を熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 10 番地に置く。

## 第 2 章 評 議 員

### (評議員の定数)

第 5 条 この法人に評議員 7 名以上を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、事務局員2名、外部委員1名の合計4名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名が出席し、かつ、賛成することを要する。

(評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。
- 3 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員に対して、各年度の総額が800,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬規程により報酬を支給することができる。

## 第3章 評 議 員 会

(構成)

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

- 2 評議員会に議長を置き、議長はその都度評議員の互選により選出する。

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任

- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第 11 条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後 3 か月以内に 1 回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第 12 条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第 13 条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 議長は次項に掲げる決議を除き、その議決権を可否同数の時にのみ行使する事ができるものとする。
- 3 第 1 項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の 3 分の 2 以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

- 4 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第 1 項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第 15 条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。
- 5 第 1 項及び第 3 項の規定にかかわらず、評議員(当該事項について議決に加

ることができるものに限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

- 第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名がこれに記名押印する。

## 第4章 役員及び職員

(役員の数)

- 第15条 この法人には、次の役員を置く。
- (1) 理事6名以上
  - (2) 監事2名
- 2 理事のうち1名を理事長とする。
  - 3 理事長以外の理事のうち1名を**常務理事**、1名以上を業務執行理事とすることができる。
  - 4 前項の**常務理事**及び**業務執行理事**をもって、**法第45条の16第2項第2号の業務執行理事**とする。
  - 5 **常務理事は理事長を補佐する。**

(役員を選任)

- 第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。
- 2 理事長、**常務理事**及び**業務執行理事**は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

- 第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
  - 3 理事長及び業務執行理事は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第 18 条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第 19 条 理事又は監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 理事又は監事は、第 15 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

(役員解任)

第 20 条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第 21 条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める報酬等規程により報酬等として支給することができる。

(職員)

第 22 条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長（以下「施設長」という。）は、理事会の議決を経て、選任及び解任する。

3 施設長以外の職員は、理事長が任免する。

## 第 5 章 理 事 会

(構成)

第 23 条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

2 理事会に議長を置き、議長はその都度互選により選出する。

(権限)

第 24 条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長、**常務理事**及び業務執行理事の選定及び解職

(招集)

第 25 条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、業務執行理事が理事会を招集する。
- 3 理事長及び業務執行理事が欠けたとき又は理事長及び業務執行理事に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第 26 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 議長の議決権は、可否同数の時にのみ行使する事ができるものとする。
- 3 第 1 項の規定にかかわらず、理事(当該事項について議決に加わることができるものに限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき(監事が当該提案について異論を述べたときを除く。)は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第 27 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 当該理事会に出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

## 第 6 章 資産及び会計

(資産の区分)

第 28 条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産の二種とする。

- 2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

(イ) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田

土地 42 筆 延 43, 813. 14 m<sup>2</sup>

\*内 訳

1) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 6 番

土地 宅地 5, 805. 73 m<sup>2</sup>

2) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 10 番

土地 宅地 8, 343. 66 m<sup>2</sup>

3) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 10 番 3

土地 原野 296. 00 m<sup>2</sup>

4) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 13 番 1

土地 宅地 579. 11 m<sup>2</sup>

5) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 14 番

土地 宅地 202. 53 m<sup>2</sup>

6) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 27 番

土地 宅地 527. 65 m<sup>2</sup>

7) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 30 番 1

土地 宅地 2, 375. 00 m<sup>2</sup>

8) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 31 番 2

土地 雑種他 126. 00 m<sup>2</sup>

9) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 34 番 2

土地 宅地 1, 889. 00 m<sup>2</sup>

10) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 34 番 6

土地 雑種地 181. 00 m<sup>2</sup>

11) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 35 番 1

土地 宅地 612. 00 m<sup>2</sup>

12) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 35 番 2

土地 原野 179. 00 m<sup>2</sup>

13) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 35 番 3

土地 原野 1, 026. 00 m<sup>2</sup>

14) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 36 番

土地 宅地 651. 47 m<sup>2</sup>

15) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 36 番 2

土地 宅地 331. 79 m<sup>2</sup>

16) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田 37 番

土地 原野 510. 00 m<sup>2</sup>

17)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田53番	土地 宅地	6,676.00㎡
18)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田54番2	土地 山林	394.00㎡
19)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田55番	土地 宅地	63.00㎡
20)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田59番	土地 宅地	100.00㎡
21)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田60番	土地 宅地	472.00㎡
22)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田61番	土地 宅地	1,512.00㎡
23)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田63番	土地 山林	1,362.00㎡
24)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田64番1	土地 原野	205.00㎡
25)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田64番2	土地 宅地	324.00㎡
26)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田64番3	土地 原野	468.00㎡
27)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田64番4	土地 原野	489.00㎡
28)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田68番1	土地 原野	974.00㎡
29)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田69番1	土地 宅地	927.11㎡
30)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田69番2	土地 宅地	68.63㎡
31)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田70番	土地 原野	297.00㎡
32)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田72番	土地 山林	369.00㎡
33)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田73番1	土地 原野	1,041.00㎡
34)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田73番2	土地 原野	338.00㎡

35)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田73番3	土地 原野	150.00㎡
36)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田41番2	土地 雑種地	192.00㎡
37)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田42番3	土地 雑種地	271.00㎡
38)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田44番	土地 原野	3,138.00㎡
39)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田10番4	土地 宅地	35.62㎡
40)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田10番5	土地 宅地	110.23㎡
41)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田53番2	土地 宅地	160.61㎡
42)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田35番4	土地 雑種地	40.00㎡
(口)	熊本県天草郡苓北町志岐字毛首2178番2	土地 雑種地	39.00㎡
(ハ)	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田10番地		
	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田13番地1		
	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田14番地		
	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田36番地		
	熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田36番地2		
	所在の建物		
	作業場・機械室	鉄骨造スレート・亜鉛メッキ鋼板ぶき平家建	577.25㎡
	倉庫	鉄骨造スレート葺平家建	165.00㎡
	倉庫	木造セメント瓦ぶき平家建	92.82㎡
	作業場	鉄骨造スレート葺陸屋根2階建	363.79㎡
		1階	
		2階	366.00㎡
	倉庫	鉄骨造スレートぶき平家建	68.08㎡
	作業場	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板ぶき平家建	94.77㎡
	物置	コンクリートブロック造スレートぶき平家建	10.16㎡
	作業場	木造合金メッキ鋼板ぶき平家建	49.66㎡
	倉庫	木造合金メッキ鋼板ぶき平家建	97.10㎡
	作業場	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板ぶき平家建	49.05㎡

物 置	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板ぶき平家建		32.85㎡
物 置	コンクリートブロック造スレートぶき平家建		30.55㎡
物 置	木造スレートぶき平家建		12.51㎡

(二) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田6番地

熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田10番地

熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田10番地5

熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田30番地1

所在の建物

療護所	鉄骨造陸屋根平家建		3,368.57㎡
機械室	鉄筋コンクリート造陸屋根平家建		78.60㎡

(ホ) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田35番地1

熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田36番地2

熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田61番地

所在の建物

作業所	鉄骨造合金メッキ鋼板葺平家建		614.00㎡
-----	----------------	--	---------

(ヘ) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田34番地2

熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田69番地1

所在の建物

グループホーム	木造合金メッキ鋼板葺平家建		257.43㎡
グループホーム	鉄骨造合金メッキ鋼板葺2階建	1階	190.31㎡
		2階	171.84㎡

(ト) 熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田53番地

熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田53番地2

熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田55番地

熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田59番地

熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田60番地

熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田61番地

熊本県天草郡苓北町上津深江字西大田64番地2

所在の建物

障害者支援施設	鉄骨造合金メッキ鋼板葺2階建		
		1階	2,311.72㎡
		2階	865.39㎡

3 その他財産は、基本財産以外の財産とする。

4 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要

な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第 29 条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、熊本県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、熊本県知事の承認は必要としない。

- 1 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- 2 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

(資産の管理)

第 30 条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(事業計画及び収支予算)

第 31 条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第 32 条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
- (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1) 監査報告

(2) 理事及び監事並びに評議員の名簿

(3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第33条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第34条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第35条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

## 第7章 解 散

(解散)

第36条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第37条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人に帰属する。

## 第8章 定款の変更

(定款の変更)

第 38 条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、熊本県知事の認可（社会福祉法第 45 条の 36 第 2 項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を熊本県知事に届け出なければならない。

## 第 9 章 公告の方法その他

(公告の方法)

第 39 条 この法人の公告は、社会福祉法人啓仁会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第 40 条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長	松	田	靖
理事	浜	崎	三 鶴
〃	酒	井	正次郎
〃	木	山	利 彦
〃	浜	本	喜 丸
〃	松	田	秀 雄
監 事	田	代	由紀男
〃	三	浦	八 水

附 則

この定款は、昭和 43 年 4 月 16 日（認可書受領日）から施行する。

（申請年月日 昭和 42 年 11 月 25 日）

附 則

この定款は、昭和 48 年 6 月 2 日（認可書受領日）から施行する。

(申請年月日 昭和 46 年 1 月 10 日)

附 則

この定款は、昭和 51 年 1 月 8 日 (認可書受領日) から施行する。

(申請年月日 昭和 49 年 10 月 1 日)

附 則

この定款は、昭和 54 年 1 月 24 日 (認可書受領日) から施行する。

(申請年月日 昭和 52 年 12 月 19 日)

附 則

この定款は、昭和 57 年 2 月 27 日 (認可書受領日) から施行する。

(申請年月日 昭和 56 年 8 月 31 日)

届け出の日 昭和 57 年 8 月 3 日

届け出の日 昭和 59 年 10 月 30 日

附 則

この定款は、昭和 61 年 5 月 22 日 (認可書受領日) から施行する。

(申請年月日 昭和 61 年 2 月 26 日)

届け出の日 昭和 62 年 2 月 10 日

附 則

この定款は、昭和 62 年 6 月 13 日 (認可書受領日) から施行する。

(申請年月日 昭和 62 年 6 月 5 日)

附 則

この定款は、平成 5 年 2 月 5 日 (認可書受領日) から施行する。

(申請年月日 平成 4 年 5 月 27 日)

附 則

この定款は、平成 6 年 6 月 28 日 (認可書受領日) から施行する。

(申請年月日 平成 6 年 3 月 31 日)

届け出の日 平成 7 年 11 月 1 日 受領日 平成 7 年 12 月 5 日

届け出の日 平成 8 年 5 月 29 日 受領日 平成 8 年 7 月 16 日

届け出の日 平成 9 年 4 月 4 日 受領日 平成 9 年 5 月 15 日

附 則

この定款は、平成 9 年 9 月 2 日 (認可書受領日) から施行する。

(申請年月日 平成 9 年 6 月 5 日)

附 則

この定款は、平成 10 年 11 月 12 日（認可書受領日）から施行する。

（申請年月日 平成 10 年 9 月 17 日）

附 則

この定款は、平成 11 年 12 月 29 日（認可書受領日）から施行する。

（申請年月日 平成 11 年 11 月 15 日）

附 則

この定款は、平成 15 年 1 月 28 日（認可書受領日）から施行する。

（申請年月日 平成 14 年 11 月 25 日）

附 則

この定款は、平成 16 年 5 月 29 日（認可書受領日）から施行する。

（申請年月日 平成 16 年 5 月 25 日）

附 則

この定款は、平成 17 年 5 月 21 日（認可書受領日）から施行する。

（申請年月日 平成 17 年 4 月 15 日）

附 則

この定款は、平成 18 年 5 月 11 日（認可書受領日）から施行する。

（申請年月日 平成 18 年 4 月 26 日）

附 則

この定款は、平成 19 年 2 月 14 日（認可書受領日）から施行する。

（申請年月日 平成 19 年 2 月 6 日）

附 則

この定款は、平成 20 年 2 月 7 日（認可書受領日）から施行する。

（申請年月日 平成 20 年 1 月 22 日）

附 則

この定款は、平成 20 年 11 月 20 日（認可書受領日）から施行する。

（申請年月日 平成 20 年 11 月 4 日）

附 則

この定款は、平成 21 年 1 月 22 日（認可書受領日）から施行する。

（届け出年月日 平成 21 年 1 月 9 日）

附 則

この定款は、平成 21 年 6 月 25 日（認可書受領日）から施行する。

（届け出年月日 平成 21 年 6 月 12 日）

附 則

この定款は、平成 22 年 3 月 31 日（認可書受領日）から施行する。

(申請年月日 平成 22 年 3 月 9 日)

附 則

この定款は、平成 23 年 5 月 31 日(認可書受領日)から施行する。

(申請年月日 平成 23 年 4 月 12 日)

附 則

この定款は、平成 24 年 3 月 6 日(認可書受領日)から施行する。

(申請年月日 平成 24 年 3 月 1 日)

附 則

この定款は、平成 25 年 1 月 28 日(認可書受領日)から施行する。

(申請年月日 平成 25 年 1 月 22 日)

附 則

この定款は、平成 25 年 4 月 30 日(認可書受領日)から施行する。

(申請年月日 平成 25 年 4 月 19 日)

附 則

この定款は、平成 25 年 12 月 19 日(認可書受領日)から施行する。

(申請年月日 平成 25 年 12 月 13 日)

附 則

この定款は、平成 27 年 7 月 21 日(認可書受領日)から施行する。

(申請年月日 平成 27 年 7 月 15 日)

附 則

この定款は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

(申請年月日 平成 28 年 12 月 27 日)

附 則

この定款は、平成 30 年 2 月 26 日(認可書受領日)から施行する。

(申請年月日 平成 30 年 1 月 19 日)

附 則

この定款は、令和 4 年 3 月 24 日(認可書受領日)から施行する。

(申請年月日 令和 4 年 3 月 10 日)